

「建築構造用鋼材と利用技術セミナー」

東京会場を皮切りに全国7会場で

日本鉄鋼連盟

日本鉄鋼連盟(会長 井正・日本製鉄社長)は2日、東京都千代田区の富士ソフトアキバプラザで「第11回建築構造用鋼材と利用技術セミナー」(東京会場)を開催した。



村上委員長

いさつで同連盟建築委員会
の村上行夫委員長(JFE
スチール建材センター建材
技術部建築技術室主査)は、
当日のプログラムを説明し
たほか、同委員会の活動を
紹介し、直近では各種溶接
部の破断に対する必要性能
明確化についての研究を開
始したことや、連盟公式サ
イトで来年度の助成金付き



吉 敷 氏

公募研究の概要を公開した
ことなどを報告した。
基調講演では、建築鋼構
造ネットワーク関東地区幹
事の吉敷祥一氏(東京科学
大学総合研究院教授)が、
「梁端接合部の低サイクル
疲労性能に及ぼす部材寸法
の影響」を演題に登壇。梁
の断面寸法とスパンを3段
階に変化させたト字形柱梁

部分架構を試験体とした、
一定変位振幅載荷実験で得
られた梁端接合部の力学特
性や破断状況、低サイクル
疲労性能に及ぼす部材寸法
の影響などについて解説し
た。

その後、鉄構業における
カーボンニュートラルや建
築鉄骨溶接の標準試験マニ
ュアル改正、TMCP鋼材
溶接施工指針などをテーマ
に、4つの講演が行われた。
同セミナーは、今回の東
京会場を皮切りに、11月12
日の仙台まで、全国7会場で
開催される。